

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0770401495		
法人名	有限会社 そら		
事業所名	大地の家		
所在地	福島県いわき市四倉町西三丁目12-15		
自己評価作成日	平成26年1月10日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-fukushima.info/fukushima/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉ネットワーク		
所在地	〒970-8232 福島県いわき市錦町大島2番地		
訪問調査日	平成26年1月18日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

日々の散歩や生活リハビリなどを通じて、体力の維持や増進に努めている。
四季を感じられる行事や地域との交流を楽しみに、穏やかな日常が送れるよう努めている。

年間行事の中には、6月ごろに一泊旅行、10月ごろには餅つき&バザー大会などがあります。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

室内は自然光にあふれ、明るく落ち着いた環境の中で、利用者がこれまでの生活を普通に行う事ができ、穏やかな毎日が送れるよう支援している。
管理者・職員は利用者に対し、家族的存在でありたいと考えており、利用者へ寄り添い家庭介護のような自然体で対応している。
日々の散歩や旅行・地域行事への参加を通し、楽しい時間を過ごしながら、体力の維持増進に繋げている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念をホールに掲示して、入職時や必要に応じて理念の共有・実践に努めている。	理念の穏やかな日常生活の実践を基に、「感謝・謙虚・素直・わかり合う・奉仕・反省・気遣い」の七つのそらのこころを掲示し、職員間でお互いの言動を確認し合いながらケアサービスに努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日々の散歩や清掃活動、地域行事や年間行事などを通して地域との交流を行っている。	毎年、地域の中学校の3日間の体験学習や高校生のボランティアを受け入れており、裏庭の畑を耕し、種まきや苗植えを一緒にの行い、利用者の楽しみとなっている。事業所主催のバザーを開催し利用者・家族・職員の手作りの作品を展示販売する等、地域の人達と触れ合う機会を多く設けている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	日々の散歩や清掃活動、地域行事や年間行事などを通してコミュニケーションを図り理解して頂けるよう努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族や地域住民、地域包括支援センター職員などの会議メンバーから率直な意見をもらい、サービス向上に活かしている。	定期的な会議で、活動状況の報告・説明し、意見・提案・助言を頂き、サービスの改善や向上に反映できるように努めている。社会情勢や物価上昇に合わせた利用料金の検討の提案等、遠慮のない意見も聞かれ、有意義な会議の場となっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	情報交換をしながら支援している。	必要に応じて、訪問や電話で現状報告や相談をし、助言・情報を頂いている。それに合わせて勉強会を開き、ケアサービスに活用できるように努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修会や定例会などを通して正しく理解することに努め、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	夜間以外は施錠せず解放状態にて、帰宅願望や外へ出ようとする利用者には、話をしたり、一緒に行動するなどして寄り添い対応している。声かけには言葉の意味合いが利用者本位になるように心掛けている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定例会などで学ぶ機会を持ち、日々の生活の中で注意を払い防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会や機会がある時に理解の浸透に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に各書類を読み上げ説明している。特に利用料や運営方針については、丁寧に説明をし同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	話しやすい環境づくりをし、挙げられた意見や要望は話し合いながら決めている。	日々の関わりの中で、何気ない会話から意見や要望を把握するようにしている。家族が気兼ねなく話せる環境作りに心掛け、受け取った意見や要望は職員で話し合い、改善策と合わせて文章化して壁に掲示している。最近、生活習慣による靴下の複数の重ねばき希望があり、即対応している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の変化に敏感に対応し、様々なことに耳を傾け意欲向上に努めている。定例会などを活かしコミュニケーションを取るようにしている。	法人での月1回の会議や事業所での定例会で、職員の意見や提案を聞き、意欲向上や質の確保に反映されるように努めている。スプリンクラー設置とエアコンの増設に繋げている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の努力や実績、勤務状況などを把握して各自が向上心を持てるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	意欲や力量に合わせて、研修会や勉強会などの参加を促している。全スタッフに定例会や働きながらトレーニングしていくことを進めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	見学や実調などで、参考になるものは取り入れている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	見学に来られた時の様子と実調の内容を参考にコミュニケーションを取り、新たな環境が穏やかな日常の場になるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学時の相談や実調内容を参考に、契約時に時間を取り良い関係づくりに努めている。利用開始後は行事参加などで良い関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	見学時の相談や実調内容を参考に、必要としている支援を見極め対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	得意なことや好んでいることなど役割を持って頂き、支え合える関係づくりに努めている。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	一泊旅行や運営推進会議、餅つき大会や老後を楽しむそらの会などへの参加協力を、お願いすることで共に支えていく関係づくりをしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族との円滑な交流を復活させたり、知人との面会の機会を支援したり、継続的な交流が出来るように働きかけている。年賀状や季節の便り、電話を使い関係が途切れないように努めている。	家族からの電話は必ず利用者に繋げ、心置きなく話ができるように配慮している。知人の面会時は温かく見守り、遠方の方には、季節毎に便りを出したり、電話で連絡をするなどして、関係が途切れないように努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	楽しく過ごせるよう考えながら、孤立せず関わり合い支え合えるような支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	見舞いへ行ったり、近くに来たからと寄って頂いたりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話や仕草から希望や意向を把握し考えるよう努めている。	利用者の会話や行動の中で、希望や意向をくみ取り、出来る限り希望に添えたいと考えている。意思疎通の困難な利用者には、表情やしぐさを受けとめて対応に結び付けている。利用者それぞれが発するわずかなシグナルも見落とすことがないように、心掛けている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	見学時の相談や実調内容を参考に、利用開始後も面会時や行事参加時など機会を活かし聞き取りをしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	役割を持てるように注目し、得意なこと好きなことの把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族や本人の要望など日々の記録や気付きを、申し送りやカンファレンスで共有しケアプランに反映している。	毎日の利用者の変化や状況、気づきを職員ミーティングで確認と意見交換をし、現時点での利用者のニーズや必要なケアを見極め、家族の意向を取り入れながら、より良いケアの提供に努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	食事分量や排泄など身体的状況、エピソードや気づきなど、日々の実践結果を記録し共有しケアプランに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	様々な状況に対応出来るよう柔軟に対応している。月間予定や一日の流れはあるが状況に合わせて変更している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	日々の散歩や外出、地域のゴミ拾いや地域行事への参加を通して穏やかに過せるよう努めている。また地域の学生ボランティアや職場体験も受け入れている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望により主治医を決めている。協力医療機関の定期受診(内科・整形外科、月一、二回)や緊急時の通院対応している。家族の協力も得ている。	主治医は家族・利用者を選択してもらい、受診は職員が対応している。その結果を家族に書面や電話で報告し、職員間でも情報を共有している。主治医とは密に連絡を取りながら、適切な医療が受けられるよう努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携体制を結び、日々の変化を報告相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中の面会を通じて、医療機関や家族との情報交換や現状把握に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に説明し、重度化や終末期に再度話し合いを持ち十分に説明しながら方針を共有している。	事業所として、医療連携体制及び重度化・看取りに関する指針を定めている。重度化や終末期においては、家族の意向を確認し、その都度相談しながら家族の希望に添えたいと考えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定例会や勉強会で応急手当や初期対応の訓練をし、実践力を身に付けるように努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月、状況を変えて避難訓練をしている。地域の避難訓練にも参加している。	年2回の消防訓練の他に、毎月事業所独自で出火場所や状況を想定した訓練を行っている。地域の避難訓練にも参加し、今年は一時避難・二次避難を行い、自然災害に対し、再確認ができています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	定例会や勉強会、勤務の中で確認と改善をしている。	利用者の生活歴を充分把握し、プライバシーを尊重しながら、なれ合いにならないよう気をくばり、無理強いせず、一人ひとりが穏やかに、その人らしく過ごすことができるよう心掛けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	希望などが言い易い環境づくり、日々良好な関係を築くよう努めている。場合によって選択肢を複数提案し選んで頂くようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人のペースを優先し、その人らしく生活出来るように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日々の整容や整髪、外出時のおしゃれなど、好みや気持ちに合うように努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理の手伝いや配膳、片付けなど出来る範囲で一緒にいる、皆で食事の時間を楽しく過ごせるように努めている。	行事やイベント以外は、毎日利用者の希望や意見を取り入れながら季節を感じられる献立作りをしている。調理や片づけは利用者のできる範囲で職員と一緒にやっている。職員と共にテーブルを囲み会話をしながらゆっくりと利用者のペースで食事を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	日々の食事量や水分量を記録し、体調に合わせた食形態や時間の対応をしている。水分摂取は時間を決めて行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを、状態などに合わせた声掛け促しや介助をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日々の記録や申し送りにより、排泄パターンの把握をし出来る限りトイレでの排泄を目標に声掛け誘導や介助を行っている。	利用者の排泄行動パターンを把握して対応している。状態変化に伴いオムツ対応となっても回復後は以前の状態に戻れるように支援している。トイレでの排泄は自立への大きな足掛かりとなり、良い成果が得られている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	自然な排泄を目標に、食材の工夫や適度な運動を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	希望やタイミングに合わせて、ゆとりを持ち入浴を楽しめるように努めている。	利用者の希望や状態に合わせて、いつでも入浴できる体制を整えている。保温効果が得られるみかんの皮を浮かべたりして、楽しく入浴できるよう努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動を促し、夜型にならないよう生活リズムを整えるよう努めている。体調や希望などにも配慮し、安心して休息が取れるように努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全スタッフが、薬の目的や副作用、用法用量を確認理解し、状態の変化を見逃さないよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	レクリエーションや手伝い(調理の下準備や後片付け、掃除や洗濯干し、畑や庭での活動)などを通して、楽しめる環境づくりに努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日々の散歩や外出、地域行事への参加や年間行事などを行っている。	季節に合わせてお花見や紅葉狩り出かけている。毎年恒例となっている家族参加の一泊旅行では、家族と温泉に入ったり、ご馳走を頂いたりして家族共々楽しんで、思い出作りをしている。今年は利用者の希望で、事業所に隣接している神社に元旦参りに出かけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持つ大切さを理解し、本人や家族と相談し希望や力に応じて支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状や季節の便り、お礼の電話など交流が途切れないよう努めている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	古民家を意識し、ホールには囲炉裏や民芸品、居間には掘りごたつや古物品などを用い、出来るだけ採光を取り入れるよう努めている。	共有空間は天窓からの自然光により明るく、階段筆筒や糸車の民芸品がさりげなく置かれ、落ち着いた雰囲気を出している。手作りの長椅子や掘り炬燵があり、利用者が自由にくつろげるよう工夫されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールには囲炉裏や居間には掘りごたつに長椅子、日当たりの良い廊下には椅子や机を置き、食堂にはテーブルがあり思い思いの過ごし方が出来るよう努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている。 (グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている。 (小規模多機能の場合)宿泊用の部屋について、自宅とのギャップを感じさせない工夫等の取組をしている。	家族や本人と話し合い、出来る限り馴染みのモノを利用出来るように努めている。レクの作品や家族の写真、花なども飾れるように努めている。	持ち込みの制限はなく、馴染みの家具や使い慣れた食器を使用することで、自宅らしい居室作りに努め安心した生活ができるよう取り組んでいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	表札を一緒に作ったり、持参もしくは手作りのれんを飾ったりと、少しでも自立した生活が送れるように努めている。共有スペースは、ほぼ全てに手すりを設置して安全に移動できるように努めている。		